

中等部第3回

国語

令和7年2月4日実施

50分

2025年度

〔受験上の注意〕

- 一、問題は〔一〕・〔二〕があります。
- 二、解答時間は五十分です。
- 三、解答用紙はこの冊子の最後にあります。
解答は解答用紙の所定のところに書いてください。
- 四、問題用紙・解答用紙に、受験番号・氏名を記入してください。

受験番号	氏名

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文には表記を変えたり省略したりした部分があります。

中学一年生の白石菜摘は、本当は鉄道の写真を撮ることが好きだが誰にも伝えられず、かわいいキャラで過ごしていた。ある時、クラスメイトの羽ヶ崎理斗に隠していたその趣味を知られてしまったが、理斗も同じ趣味であることが分かり、二人は親しくなっていた。一年の終わり、三年生を送る劇で、得意なヘアメイクを担当した菜摘は充実した気持ちで帰宅した。

そんなこんなで、その日は学校で色んなことがあった。

楽しかったし、達成感もあったし、気持ちもなんだかスッキリした。

学校を出ても気持ちはずっと昂ぶっていた。けど家に帰ってすぐ、それはあつという間にしほむことになった。

「菜摘ちゃん、やったやった！」

※ 帰宅するなり、ミツミちゃんがひよこひよこスキップでも踏むような足取りで玄関まで駆けってくる。

※ 「書類審査、通った！」

楽しかった気分はすっかりどこへやら、わたしは黙ってミツミちゃんを見返した。

「面接の案内も来てるから！ 来週の土曜日、東京に行けるよ！ あー、楽しみ！」

ミツミちゃんはこれでもかというくらいニコニコしていて、「おやつにケーキ買ってきたから！」と言い残し嵐のよう

家に帰ったら、ミツミちゃんに今日の話を話そうと思った。

ヘアアレンジがんばったよとか、舞台は大成功だったよとか。

……そんなの、どうでもいいってことか。まあ、わかってたけど。

ミツミちゃんが待つリビングには寄らず、二階の自室で私服に着がえた。^①あえてかわいい服は避け、ラフなセーターとデニムのパンツを選ぶ。コートを掴んで自室を出て、歩きながらリビングの方に声をかける。

「コンビニ行ってくる」

「え、ケーキは？」

ミツミちゃんが顔を出す。でもそちらは見ずに、スニーカーに足を突っ込んだ。

「あとで食べる」

家を出て、自転車を飛ばす。駅前の塾へ行くときの道を走り、途中で折れる。まだ午後五時前だったけど、東の空はうつすら夜の色に染まり始めている。手袋をしてくるのを忘れ、目当ての踏切の前で自転車を停めたときには、両手がすっかりかじかんでいた。

両手をコートポケットに突っ込み、その場で待つこと五分ほど。

——カンカンカンカン……。

踏切が鳴りだした。

冷たい指でスマホをソウサし、カメラを向ける。

脇をしめてしっかり立って、撮りたい構図を先にイメージし、ピントは先に合わせる。

撮りたい構図。撮りたい写真。

……わたしは、何を撮りたかったんだっけ。

鳴り続ける踏切の警報音に、ファアアンという警笛が重なった。近づいてくるのは、成田空港行きの快速電車。シヤッターボタンをタップ。連写しようと思ったのに、指先が震えてうまくできなかった。

列車が走り抜け、ぶんつと風に煽られる。冷たい風が塊になってわたしを通過し、踏切の警報音がやんだ。

ふいに世界から音がなくなり、スマホの画面に目をやる。

快速電車はぶれぶれで、見つめているうちにもつとぐちゃぐちゃに歪んでいった。

Xデー、つまりはオーディションの当日になってしまった。

オーディションは午後からで、ミツミちゃんは朝一に近所の美容室を予約した。ヘアトリートメントをし、前髪を整え、サイドを編み込みにしてもらう。一時間もかからない施術だったけど、やっぱりプロの技は違うんだなあなんて現実逃避するように観察した。

服はふんわりしたチェック柄のスカートに、レースのついた襟がかわいいブラウスと、スカートとお揃いのジャケット。なんだかお人形さんみたいで、ミツミちゃんの趣味全開って感じ。

「気合いが入ってて、すごいなあ」

遅く起きてきたお父さんは、すっかり身支度を調えたわたしたちを見て感心したように呟いた。ミツミちゃんも、授業参観にでも行くような明るいベージュのスーツ姿だ。

「今日が大勝負だからね！」

両手に拳を作ったミツミちゃんを見て、改めて後悔した。これまでみたいに、オーディションの誘いなんてのら

りくりりとかわせばよかった。一度落選すれば諦めてくれるかも、なんて考えてしまった浅はかな自分が悔やまれる。

ミツミちゃんは面接対策をしつかりやっていて、ここ数日は質問回答の練習で忙しかった。「オーディションに参加した理由は？」とか、「将来どんなモデルになりたいのか？」とか、そんな質問。けど、参加した理由も将来のプランも、わたしにはなんにもない。うまく答えられずにいたら回答は全部ミツミちゃんが考えてくれたので、ひとまずそれを丸暗記した。

……とはいえ、オーディションに受かるのなんて数人。二次審査とはいえ、きつとオオゼイ受けるはず。そこで落選するよね。

②「やるだけやってみる」

参加すれば、ミツミちゃんも満足はしてくれるだろうし。

わたしの言葉に、ミツミちゃんはいうんと頷き、お父さんは「がんばれー」と応援し、わたしたちを駅まで車で送ってくれた。

現在時刻は午前十時半。オーディションは午後二時からなので、早めに現地に行ってランチして備えよう、ということになっている。四十一分発の東京行きの快速電車に乗れば、東京駅までは乗り換えなしだ。

駅のホームで電車を待つ。ミツミちゃんは見るとそわそわした様子でスマホを見ていて、「前日から現地入りしておけばよかったかなあ」なんて呟いている。わたしは自分のスマホを取り出し、通知が来ていたメッセージアプリを開いた。手芸クラブのグループで、四月の新入生歓迎シーズンに向けて連絡が飛び交っている。

オーディションには、落ちると思う。思うけど。

もし、万が一、受かったら？

学校とかクラブとかそういうの、どうなるんだろう。

義務教育だし、学校を休むことはないだろう。でも、土日は？ 放課後は？ クラブ活動なんて、できなくなるのかな。

桜子ちゃんとおしゃべりする、平和で穏やかな手芸クラブの空間が好きだった。わたしがあそこにいられたのは、わたしがかわいいからじゃない。手芸クラブの一員だからだ。手芸クラブで、桜子ちゃんと友だちになれたからだ。

手放したくない。なのにわたしは、多分当たらないとは思えど、もしかしたら当たるかもしれない宝くじを、今から購入しようとしている。手放したくないものを手放すことになるかもしれない、そんな何かなるための場所に行こうとしている。

それに、と隣で真剣な顔をしているミツミちゃんの横顔を見た。

一度落選したら、ミツミちゃんは、本当に諦めてくれる？

そんなに、ミツミちゃんは甘くないんじゃない……？

③心臓が鳴りだした。不安だか緊張だかなだかわからない気持ちで、目の前がぐるぐるしてくる。

本当にわたしは、これでよかったのかな。

視線を上げるとホームの屋根、そして線路の向こうには駅前のビル、千葉都市モノレールのレール、その後ろに広がる澄んだ青空。朝一番に、ミツミちゃんは「オーディション日和だね！」と言った。

でもその青空を見て、わたしは思った。

今日、鉄道の写真を撮れたら、映えるだろうな一って。

ホームにアナウンスが流れ、東京行きの快速電車が到着する。十一両編成。山手線と同じE235系で、平たい顔にブルーとシルバーの車両。都賀駅つがえきの次、東千葉駅を通過するので五分ほどで千葉駅に着く。

空席が二つあったので、ミツミちゃんと並んで座^{すわ}った。ミツミちゃんはまだスマホを見ていて、何をそんなに熱心に見ているのかとそつと覗^{のぞ}くと、オーディションの体験記らしいブログか何かだった。

ミツミちゃんは真剣だ。

※消えない後悔のためにがんばってるから。

それを、これからもずっと、かわすことなんてできる？

そのとき、手にしたままだったスマホの画面がふいに明るくなった。メッセージの通知。また手芸クラブのグループかと思ったけど、表示されていた名前は違った。

羽ヶ崎理斗。

送られてきたメッセージには本文がなく、写真が表示された。

JRの駅名標。内房線の五井駅のものだ。

続けて、ポツとメツセージが表示された。

《これから小湊鐵道、撮りに行く》

そういうば、三月になつたら小湊鐵道を撮りに行くつて言つてたつけ。

春と呼ぶにはまだまだ寒く、桜の季節には早い。けど、黄色い菜の花はもうそこかしこで咲さいていて見頃みごろを迎むかえていた。うちの学校の校庭のすみっこでも、黄色い花がたくさん咲いている。

天気もいい。絶好の撮影日和。

今日行くなら、もっと早く教えてくればよかったのに——などと一瞬^{いつしゅん}思ったけど、もちろん一緒^{いつしょ}に行く約束なんてしていないし、羽ヶ崎くんがわたしに教える義理もない。わたしと羽ヶ崎くんは、そういう仲じゃない。

でも、
だけど。

一人だけズルい、
と思つてしまった。

わたしの推しおの鉄道なのに。

わたしだって撮りたいのに。

わたしだって、見たいのに。

わたしはこれから千葉駅を通過し、房総半島をどんどん北上して、東京に行かないといけない。

なんでなんだろう。

せっかく電車に乗っているのに、行きたいところに全然辿り着けない。

羽ヶ崎くんのメッセージを、古い方にスクロールしていった。

目に留まるのは、あのメッセージ。

※《人生短いし、好きなことやった方がいい》

言うは易く行ふは難し、なんて言葉が浮かぶ。そう、本当にそのとおり。
好きなことをやるのって、本当に本当に難しい。

がんばってキャラを作ってきた。

ミツミちゃんの望む「かわいい」を大事にしてきた。

かわいいわたしは嫌いじゃない。

かわいいは、とっても便利な武器。

その武器を使いながら、たくさんたくさん気を遣^{つか}ってこれまでやってきた。

ニコニコして出しゃばらなければ、色んなことがうまくいく。

みんなが「菜摘^ほちゃんは、かわいいから」って褒めてくれる。

——でも、でもさ。

たくさん褒められたからって、それがなんだっていうんだろう。

褒められたって、それだけのこと。

ちよっと気持ちよくなって、ミツミちゃんが喜んで。

それでおしまい。

わたしには、それで何か残る？

そうやって残るのは、後悔だけなんじゃない？

鉄道の凶鑑^{ずかん}を見ていたときのような、胸が熱くなってキュンとするような、そういう感情になったりする？

そういうわたしだって、わたしなのに。

わたしにだって、好きなことも、できることも、やりたいこともたくさんあるのに。

色んなわたしを隠してまで、かわいくある必要なんてある？

※——おれも、死ぬときは、みんなにそんなふうに言われるのがいい気がする。

わたしもいつか死ぬんだって頭では理解しているけど、そんな何十年先かもわからないことは、やっぱりうまく想

像できない。

それでも、羽ヶ崎くんが言わんとしていたことはわかる。

後悔は、ずっとずっと残るものだから。

あのときこうしておけばよかった。なんでそんな選択^{せんたく}をしてしまったのか。そんな呪い^{のろ}をかけるのは、自分自

身。

他人からの呪いなら、いつか別の誰^{だれ}かから、解いてもらえることもあるかもしれない。

でも、自分自身の呪い^④は違う。

やらなかったのは自分だから。

選ばなかったのも自分だから。

それをどうにかできなかったら、きっと一生引きずる。悪いのは、後悔の種をまいてしまったのは、全部全部、自分^{自分}分^{自分}ってことだから。

……そんなの、考えただけでゾツとする。

わたしは、絶対^{いっぴ}に、嫌だ。

『次は千葉、千葉。お出口は、右側です』

車内アナウンスがあり、電車が千葉駅のホームにするすると到着する。ドアが開いて乗客の乗り降りがあり、^エけど、

電車はすぐに発車しない。

「少し停まるのか。そわそわするなあ」

ミツミちゃんの言葉の直後、千葉駅で六分ほど停車する旨^{むね}のアナウンスが流れた。スマホの時計を見る。十時

四十八分。発車は十時五十二分らしい。

「菜摘ちゃん、面接の練習でもする？」

「いいよ、こんなところで。恥ずかしい」

「小さい声でやれば目立たないって」

発車まであと三分。

「ランチって、お店は決めてるの？」

「うん。会場の近くに、よさそうなカフェがあったから予約した」

発車まであと二分。

「菜摘ちゃん、餡^{あん}いる？」

発車まであと一分。

「そういえばこれ——」

「あのさ、」

わたしは席を立った。

ミツミちゃんが座ったまま、Aとこちらを見上げる。遠足を楽しみにしている子どものような、緊張とわくわくでいっぱい顔。たちまち罪悪感が胸をよぎる。

けど。

「ごめん」

「え？」

リリリリリという発車ベルの音がホームに響^{ひび}く。

^⑤「カフェには、お母さん一人で行って」

足を前に出した。

『快速東京行き、間もなく発車です。ドアが閉まります——』

そんなアナウンスの流れるホームに飛び出た瞬間、背後でドアが閉まる。

「菜摘ちゃん!？」というお母さんの声がしたような気がしたけど、走り始めた電車の方は見なかった。風がホームを吹き抜^ふけてわたしの髪をさらい、電車は次の稲毛^{いなげ}駅に向けて去っていき、やがて静かになった。

千葉駅のホームに、わたしは一人Bと立っていた。

……やれた。

膝^{ひざ}の力がCと抜けかけ、なんとか足を動かして近くのベンチに座る。成田線の9・10番線ホームのベンチは、成田空港をイメージしているのか飛行機の柄だった。

と、そのとき。

握^{にぎ}ったままのスマホが振動^{しんどう}してビクついた。

お母さんからの電話。

ゆっくり息を吐^はいて、吸って、顔を線路の向こう、ビルや千葉駅の千葉公園口などがある方に向けた。

撮影日和の青空。

素早^{すばや}くお母さんの着信^{きょしん}を拒否^{きよひ}し、そして羽ヶ崎^{はながさき}くんメッセージを送る。

《わたしもこれから行く!》

※ミツミちゃん……母である光美のこと。光美は、菜摘とは友だちのような関係でいたいからと、自身をミツミちゃんと呼
ばせている。
※書類審査……ミツミちゃんが応募した、モデルオーディションの審査。ミツミちゃんは菜摘にモデルになることをすす
めている。
※消えない後悔……ミツミちゃんのもととモデルの仕事をしていたが、菜摘が生まれたことで辞めてしまった。
※《人生短いし、好きなことやった方がいい》……以前、菜摘が羽ヶ崎くんに送った「親に、別のことをやれって言われ
ることない？」というメッセージに対する返信。
※——おれも、死ぬときは、みんなにそんなふうに言われるのがいい気がする。……羽ヶ崎くんが以前、菜摘に言った言葉。
カメラマンだった羽ヶ崎くんの父親は交通事故で亡くなっているが、親戚からは「好きなことをやれるだけやってた」
と言われている。

問一 線部（a）（b）のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

問二 A～Cに入れるのに適切な語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ポツン イ じろっ ウ きよとん エ ガクン オ のっそり

問三 線部①「あえてかわいい服は避け、ラフなセーターとデニムのパンツを選ぶ。」とありますが、この行
動からわかる菜摘の心情としてもっとも適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア オーディションの書類審査に通過したことを無邪気に喜んでるミツミちゃんを受け入れることがで
きず、反発する気持ち。
イ かわいい服は自分の趣味ではなく、日頃からうんざりしていることを今こそミツミちゃんに理解して

ほしいと意気込む気持ち。

ウ 鉄道の写真を撮るために少しでも早く家から出ていこうとしており、服装に気を遣う余裕もないほど
あせっている気持ち。

エ 菜摘の気持ちを無視するようなミツミちゃんの言動にひどく傷ついたものの、自分の気持ちを何とか
立て直そうとする気持ち。

オ いくら自分がかわいい服を着たとしても、ミツミちゃんが気に入るようなわたしにはなれないのだと
あきらめる気持ち。

問四 線部②「やるだけやってみる」とありますが、このときの菜摘が考えていることを説明しなさい。

問五 線部③「心臓が鳴りだした。」とありますが、その理由を九十字以内で説明しなさい。

問六 線部④「自分自身の呪い」とありますが、どのようなことですか。具体的に言い表した一続きの二文を
本文中から探し、初めの三字を抜き出しなさい。

問七 ―― 線部⑤「カフェには、お母さん一人で行って」とありますが、このときの菜摘の心情としても

適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「かわいいわたし」を褒めてはくれるが、本当は様々な面を持つ「わたし」を認めてくれないミツミちゃんは、これ以上何を言っても変わらないだろうとあきれている気持ち。

イ 自分が本当にしたいことに向かって勇気を出して行動しようと決心し、母を「ミツミちゃん」ではなく「お母さん」と呼ぶことで、自分の気持ちに区切りをつけようとする気持ち。

ウ 今まで隠していた好きなものへの思いを貫き通す覚悟を決め、写真を撮りにいくためにはこれ以上母につきあっている時間はないことをはっきり分からせようとする気持ち。

エ 菜摘の気持ちを全く尊重することなく、自分の望みだけをかなえようとするミツミちゃんに怒りを感じ、
じ、「お母さん」とあえて呼ぶことできっぱりと決別しようとする気持ち。

オ ミツミちゃんを裏切るようでつらい気持ちもあるが、これ以上期待に応えることのできない自分を恥ずかしく思い、呼び方を変えることで少しでも距離を置こうとする気持ち。

問八 〜〜線部ア〜エの表現の説明として適切なものには○、適切でないものには×で、それぞれ答えなさい。

ア 〜〜線部アの表現は、母とのやりとりや上手くいかない電車の撮影によって菜摘の気持ちが乱れ、涙がにじんでいる様子を表している。

イ 〜〜線部イの表現は、ともすれば落ち込みそうになる菜摘が、手芸部の友人からのメッセージを心待ちにしていたことを表している。

ウ 〜〜線部ウの表現は、好きな電車に乗っているにも関わらず、自分の本当にしたいことができない

菜摘の思いを表している。

エ 〜〜線部エの表現は、オーディション会場へ早めに向かいたいが、思うようにいかないことに対する母のいら立ちを表している。

【二】 次の【本文1】・【本文2】はいずれも平賀緑『食べものから学ぶ現代社会―私たちを動かす資本主義のカラクリ』の文章です。これらを読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、本文には表記を変えたり省略したりした部分があります。

【本文1】

もともと人類は、世界各地の、^(a)いろいろなキコウの、山や海や森や川などいろいろな自然環境の中で、その地域で食べられる多種多様な植物を食べて生き^(b)ノびていました。そもそも、陸路でも海路でも物を運ぶことに

A

も費用もかかった時代に、しかも大多数の人たちが身の回りの自然や田畑から食料を手でできた時代に、庶民が日常的に食べるものを遠くまで売りに行こうとは思わないでしょう。

小麦の貿易がなかったわけではありません。フェルナン・ブローデルというフランスの歴史学者が記した『地中海』シリーズにも、小麦の貿易があった様子が描かれています。でも、食料らしい貿易の記述といえ、地中海沿岸の裕福な都市部へ持ち込むための、小麦、ぶどう酒、オリーブ油くらいでした（このオリーブ油は食用以外に使われたものだと、私はにらんでいます）。食料は基本的に都市周辺や近郊の農村から調達するものであり、ただ大都市の金持ちだけが、重く嵩張る食料を長距離移動させるといふ贅沢をすることができたのでした。逆に、当時の主な貿易品として描かれていたのは、アフリカやアメリカ大陸から輸入された金銀などの貴金属や、レヴァントと呼ばれたアジア大陸からの「東方貿易」で、とくに、東方貿易の目玉商品として胡椒など香辛料がありました。香辛料は、

C

都市部では、他の地域から輸送してきた小麦を食べていたかもしれないけれど、でも、西洋でも昔から小麦が大多

数の人たちが毎日のように食べる「主食」だったわけではなかったようです。ブローデルの研究でも、トルコの村人はオート麦（燕麦）のパンを食べていたし、^{*}コルシカでは栗のパン、イタリア半島ではコメ、アフリカ北部ではエジプト豆や空豆など、いろんなモノが食べられていました。

小麦が主食だと思われている欧州でも、例えば英国に小麦パンが普及したのは産業革命が始まったところで、1770～1870年代が「小麦パンの時代」と呼ばれたほど、近代に入ってから急に広まったのでした。その後でも、北のスコットランドでは燕麦のオートミールが多く、西のウェールズでは大麦やライ麦の消費が多かったそうです。

「近代に入ってから」とほのめかしたように、小麦が「主食」になった経緯にも、資本主義経済の始まりが関係しています。

世界に先駆けて産業革命を始めた英国では、農村から多くの労働者が都市部の工場に集まってきました。それまで農村で、田畑や山川など身近な自然環境から日々の食を得ていた人たちも、工場で働くために町に移住すると、自分の食べものを自給することができません。つまり、労働者の胃袋というまとまった食料の市場ができた。するとそこへ、まとまった食料を供給するシステムが生まれます。

英国は、まずは今のドイツやポーランドなどバルト海沿岸地域から小麦を輸入し始め、やがて大西洋を越えて今の米国やカナダなどから小麦を輸入するようになりました。すると輸出する側の北米では、売るために小麦を栽培する農家や、その小麦を集荷して輸出する穀物商社が生まれてきます。こうして小麦は貿易する「商品」となり、売るための商品作物を生産する農業や、商社などの流通業が発展していきました。食べものの「商品化」です。

【本文2】

工場で動力と機械を使って小麦を製粉するようになると、大量の原料、つまり大量の小麦が必要になります。とくに、北米の大草原で栽培しやすかった硬質の春^{はる}蒔^まき小麦がこの鉄製のロール式製粉機に適していたため、北米において商品作物としての小麦を大量生産するようになりました。つまり、農業が近代化・大規模化^①され、小麦をトクサン^(c)する地域が形成されていったのです。しかも機械で真っ白になるまで製粉した小麦粉は、胚芽^{はいが}などの油分が取り除かれて酸化しにくかったため、長期間保存して遠くまで輸送できるようになりました。つまり、遠くまで市場を広げたり、海外まで輸出したりしやすくなったのです。すると、小麦粉を使ってパンなどを作る食品製造業も、広範囲^{こうはんい}から大量の原料を調達して、ここでも機械を使って大規模化し、大量のパンや加工食品を生産できるようになった。するとそれら大量の加工食品を大量に販売^{はんばい}する流通業や小売業も発展していく。

つまり、製粉業が機械化・大規模化すると、農業側に単作の大規模生産を求め、出荷先に大手パン工場など大量販売先を求めるようになるのです。

アルフレッド・チャンドラーという米国の経営史家が記したように、当時は、鉄道網と電信網^{てつどうもう}※が急ピッチで建設され、この輸送と情報システムの構築によって、多くの産業が大量生産と大量流通を急成長させた時代でした。企業^{きぎやう}には優れた経営陣^{けいえいじん}も育ち、例えば製粉業では、粉碎機^{ふんさいき}や銅製ローラー、精製機、吸引機などを連続稼働^{れんぞくかどう}できる大規模な製粉工場を設立・運営して、商品としての小麦粉の検査や等級づけなど品質管理も整備することで、高品質の小麦粉を安い単価で大量生産できるようになりました。

商品を大量に生産すると、それを大量に販売する必要性が出てきます。だから、市場で売れそうな商品を開発して、市場を広げる努力をして、なるべく原料などの費用^{おき}は抑えて、なるべく高く大量に売ろうとする。つまり、大量生産・

大量消費の始まりでした。

こうして、食と農の世界も、産業としての農業、食品製造業、流通・小売業が trianaる、資本主義的食料システムとして発展し始めました。他の産業と同じロジックで、競争しながら利潤^{※りじゅん}を追求する、企業や事業者として「食べられる商品」食品^②を、なるべく安く生産してなるべく高く大量に売りたい、そんな食料供給システムに変わっていったのです。

（平賀緑『食べものから学ぶ現代社会―私たちを動かす資本主義のカラクリ』岩波書店）

※コルシカ……地中海西部にあるフランス領の島。

※電信……文字や写真などを電気信号に変えて行う通信。ファクシミリ（FAX）など。

※利潤……もうけ、利益のこと。

問一 線部（a）（c）のカタカナを、それぞれ漢字に直しなさい。

問二 A、Bに入れるのに適切な語を次の中から二つ選^くび、記号で答えなさい。

ア 能力 イ 労力 ウ 利益 エ 生活 オ 時間

問三 Cに入れるのに適切なものを次の中から選^くび、記号で答えなさい。

ア 美味、巨大 イ 手軽、危険 ウ 軽量、小型 エ 平凡、新鮮 オ 貴重、古風

問四 次に示すのは、花子さんが【本文1】を読んで、その内容をまとめた【フート】です。以下のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

【フート】

小麦パンの時代

◆かつて…世界各地の様々な自然環境の中で
多種多様な植物を食べて生きのびていた

小麦の貿易がなかったわけではないが、
基本的に食料は X もの



大都市の金持ちだけが食料を長距離移動させる
贅沢ができた

小麦は毎日のように食べる「主食」ではなく、
地域によって様々なものが食べられていた

(例) トルコ…オート麦のパン

コルシカ…栗のパン

イタリア半島…コメ

アフリカ北部…エジプト豆や空豆



◆産業革命以後

「小麦が主食になるまで」

英国で産業革命が始まる

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

←

食べものの

Y

問五 ——— 線部①「農業が近代化・大規模化」とありますが、それに関連して、どのようなことが起きたと本文では述べられていますか。「輸出」と「販売」の二つの視点からそれぞれ三十文字以内で説明しなさい。

Ⅰ X、Yに当てはまる語を、 X は十六字で、 Y は五字以内でそれぞれ【本文1】から抜き出して答えなさい。

Ⅱ ①～④に当てはまるように、次のア～エを適切な順に並べかえ、記号で答えなさい。

ア 輸出用の小麦の栽培や流通業が北米で発展する

イ 労働者に食料を提供する新たな市場が生まれる

ウ 労働者が農村から都市部の工場に働きに来るようになる

エ 海外の複数の地域から小麦を輸入する必要性が生まれる

問六 ――線部②「そんな食料供給システムに変わっていった」とありますが、その内容としてもっとも適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 商品を大量に生産しようとする、そのぶん費用がかかるため、商品を販売する量なるべくおさえるシステムが重要視された。

イ 農作物を輸出する際には種類や品質がそろっていることが必要であるため、生産の段階から情報システムを用いた厳しい管理が行われた。

ウ 農業はそれぞれの土地で作物を作り育てるという性質上、他の産業と比べて機械化が難しく、大量生産の開始が遅くなった。

エ なるべく安く生産してなるべく高く大量に売るため、食品製造業や小売業など複数の産業が関わるシステムとして発展した。

オ 消費者に大量消費をうながすため、機械化による食品の大量生産が行われるようになると、安くて質の低い商品が市場に出回った。

問七 次に示す【資料】は、【本文1】・【本文2】より後で述べられている文章です。これを読んで、後のⅠ・Ⅱに答えなさい。

【資料】

現代社会の、資本主義経済で「効率化」された、世界規模の食料システム（グローバル・フード・サプライチェーン）は、図20のように示されます。農業は大規模化・工業化・商業化され、その生産資材も、4社で世界市場の半分

以上を寡占しているような巨大企業が販売する肥料や農薬、除草剤、種子を購入して使っている。農場から出荷された商品作物は、これまた巨大企業が処理や加工することが多い。そして国境を越えて貿易・流通され、これまた巨大企業が多いスーパーマーケットやコンビニや外食産業を通じて私たちの口に入る。

この、集中された細い線で繋がった食料システムだったからこそ、新型コロナウイルスの感染予防のために人やモノの移動が止まると寸断されて、1カ所でも止まると全体的に動けなくなったり、ウクライナとロシア2カ国からの穀物や肥料の輸出が危うくなるとたちまち世界中が食料危機に怯えることになったりと、このリスクを集中させた食料システムの脆さ、危機への脆弱さが露呈したのでした。

でも、政府や企業は「business as usual（いままで通り）」の古い呪文を繰り返して、ただ貿易を再開させて、似たようなシステムを再建しようとしているようにみえます。それでは、私たちの食を得るためのシステムは、これから起こりうるリスクに弱いままで、生産者や食品産業の労働者は低賃金重労働のままで、引き続き人も自然も破壊するシステムに留まってしまうでしょう。

では、どのような食料システムならリスクにも強い弾力性や回復力を持った「レジリエント」な食と農と経済を、みなさんの未来を、築くことができるでしょうか。

まずは、今まで人も自然も壊してきたカラクリの逆を考えて、小さく分散して、急がず、自分が主体的に考えることから始めてみると良いと思います。

自分から、まずは小さく、考え動き始めること。それは小さいけれど大きな第一歩です。

前著『食べものから学ぶ世界史』の終章でも、私はみなさんに、まずは少しでもお金の世界から離れて、自分でお茶を淹れてみるところからと話しました。おいしく、かつ人や自然を壊さないと考えたお茶を、自分や身の回りの人に淹れられる知識やスキルを育てると、それによって広げられる人間関係に気づき、築くことができるはず、と。自分と周りの人の役に立つ、地域や環境にも貢献できる有用性、つまり「使用価値」を重視することから、地域に根ざした食と農に繋がれば、自分が食べるモノから見えてくる、自分が繋がっている自然環境と、身の回りの生活空間やインフラと、それを支えている政治経済や制度について、自分のためにも考えようと思えるでしょう。そう思えたら、ぜひ、これらを大切にするために自分に何ができるか、考えてみてください。小さめの生活圏の中で、モノや資源や労働力やスキルなどを循環させ再投資していくことで、本当の意味での「経済」を豊かにすることもできるでしょう。

※図20……ここでは省略する。

※寡占……少数の大企業が、商品の生産や販売の大半を占める状態。

※脆弱さが露呈した……弱さが明らかになった。

※弾力性や回復力を持った「レジリエント」な……状況に応じて変化する柔軟性を持っている、ということ。

I ——線部③「今まで人も自然も壊してきたカラクリ」とありますが、それを端的に言い表した部分を【資料】の中から三十字以内で見つけ、初めの五字で答えなさい。

II 以下に示すのは、——線部④「まずは小さく、動き始めること」について、生徒たちが意見を出し合っている場面です。【資料】の内容をふまえた発言として適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

なさい。

ア (生徒A) …「私は、和食の文化を守るため、着色料などの食品添加物が使われている食品はなるべく避けようと思います。それが伝統的な食文化を継承することだけでなく、多くの人の健康を守ることもつながると考えるからです。」

イ (生徒B) …「日本政府が安定した食料供給システムを構築しているおかげで、新型コロナウイルスの流行下でも、私たちは普段と変わらず食料を得ることができました。世界が危機に陥る中でも、日本にはリスクを避けるシステムがあるんですね。」

ウ (生徒C) …「自分が生まれ育った土地について学び、昔からその地域で作られている野菜などを、今後も作り続けていくことが大切だと考えます。地元の食材を自分たちで消費することで、身の回りの環境への意識も高まるのではないのでしょうか。」

エ (生徒D) …「これまでは、食べ物の値段ばかりを気にしていましたが、生産者の人たちから自分の手元に食品が届くまでのシステムや、店で売られるまでにどのような制度や仕組みがあるのかについても調べてみたいと思いました。」



国語

解答用紙

(第三回)

得点
受験番号
氏名



253020

↓ここにシールをはってください↓

〔一〕

問八	問七	問六	問五				問四			問三	問二	問一	
ア											A	(a)	
イ											B	(b)	
ウ											C		
エ													

